

1. 日時 平成 30 年 2 月 2 日（金） 15：00～17：00

2. 場所 大阪府立桃谷高等学校 会議室

3. 出席者（委員）

中島順次 会長 ・ 梅田和子 委員 ・ 新澤信子 委員 ・ 田口直美 委員 ・ 花山吉徳 委員

4. 主な内容

今年度の学校経営計画評価（案）、学校教育自己診断を踏まえた平成 30 年度学校経営計画策定に向けて

5. 説明・協議

【多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部の報告】

①平成 29 年度 学校教育自己診断結果について

- ・生徒からの回収率が昨年度より約 10%上がり、50.4%であった。行事と併せて配布・回収した点が上昇に繋がったと思われる。
- ・「桃谷高校に入学してよかった。」「この学校には生徒のニーズにあった特色がある。」については昨年同様肯定率が 80%を超えていた。
- ・生徒評価の中でも特に、部活動への参加・相談体制・学校ホームページやメールマガジンの活用等が昨年を 10%上回る評価であった。
- ・保護者評価のうち、授業評価・学校行事の持ち方・教育情報の提供について肯定的評価が上がった一方で、防災等に関する危機マニュアルやメールマガジンなどの周知が徹底されていないなどの課題が残った。
- ・教員評価では、防災・危機管理マニュアルの具体化・関連機関との連携・分掌連携・各種会議の有効化・服務規律意識等、学校運営上の項目において大きく改善したが、校内研修の見直しや初任を含めた経験の少ない教員の育成等の課題が残った。

②平成 29 年度学校経営計画及び評価（案）について

- ・保護者懇談の実施率は低くなっているが、家庭訪問の実施率が高まっている。
- ・外部研修の報告会は年間で 10 回実施した。
- ・キャリア教育におけるアウトカム指標は自己有用感以外は上がっており、一定の成果が得られた。但し、在校生全体の指標が下がってきている。スモールステップでの成功体験などを踏まえて褒めることを中心に指導していきたい。
- ・進路指導希望の未決定者率は 2.8%であった。また、「進路について考える機会」における生徒肯定率は 79.9%で前年度よりも 10%上がった。
- ・「わかる授業」授業見学・研究授業の ICT 機器の利用や授業中の発表の機会における数値は目標を達成することができなかった。H30 年度の課題。
- ・「桃谷プロジェクト」人権学習後の生徒の肯定率や自己診断の結果も大幅に上昇した。丁寧な指導が効果の上昇の原因だと考えられる。
- ・教育相談について保護者肯定率は昨年同様であったが、生徒の「担任以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」は前年の 49.8%から 64.4%へと大幅に上昇した。これについては、意識的に取り組んできたことに加え、入試制度の変更に伴う入学生徒層の変化や、若い教員の増加によって相談しやすい体制が整ってきたと考えられる。

- ・部活動等については陸上部・野球部・サッカー部・バトミントン部等が全国大会に出場した。生徒の自己診断の「学校は部活動にも参加しやすいように工夫している」が 62.8%で昨年の 51.6%を大きく更新した。
- ・校外学習の参加人数も大幅に増えたため、更なる充実を図っていきたい。

③平成 30 年度学校経営計画及び学校評価について

- ・本校のあり方や方向性を明確化することを加筆。
- ・首席を中心とした授業力向上の推進チームを作り、研究していく。
- ・研修に参加した教職員を囲んで研修報告座談会を実施する予定。
- ・規律指導を強化し、「授業を大切にする」ということを念頭に、生徒の意識改革を図る。
- ・部活動指導がしにくい状況にあるため、体制の改善を図る。

【Ⅰ・Ⅱ部 協議・質問】

- ・保護者からの意見等をホームページにて募ったが、現時点では 0 件。

1 平成 29 年度学校評価の C 「スモールステップでの成功体験」とは具体的にどのような取り組みをしているのか。

⇒ 「生きる力の育成」という観点でキャリアカウンセリングやインクルーシブ教育を基本にして進路指導や特別活動などに重点をおき、クラブ活動等で成功体験をさせる。特別活動や総合の時間においては自ら意欲的に将来のことを考える取り組みをしている。スモールステップというのは、各授業などで褒めるというような、小さなことを積み重ねていくこと。

2 アウトカム指標について、全体的に明らかに上がっている。先ほど報告にあったが、自己有用性はそこまで下がっていないため、評価の部分を見直してはどうか。

3 ①入試制度が変わって入学してくる生徒層が変わったということだが、それについてもう少し詳しく知りたい。②府議会で桃谷高校のあり方について議論したということだが、その内容について詳しく知りたい。

⇒ ①入試制度の変化については、アドミッションポリシーというものを設けており、本校ではアドミッションポリシーで半数の生徒が入学することが可能となった。そのため、本校を真に必要とする生徒が増えたことや行事のしかけにより、学校行事などに参加する率が上がったのではないかと分析している。

②年末の府議会の議題に挙げた 通信制の昼間部に入りたくても倍率が高いため入れない生徒がいる。それについて桃谷高校全体として、何らかの改革が必要である。2 課程 5 部が共存していることから、授業や教室についての都合などが今後の議題にあがってくると考えられる。

【多部制単位制Ⅲ部の報告】

①学校教育自己診断結果について

- ・保護者には郵送に加え、文化祭で回答してもらったことで 15 名増加しているものの回答率が低いことが課題。
- ・「教え方にさまざまな工夫をしている先生がいる。」の項目は昨年度よりも 4%減となっているが、肯定率 80%を維持することができた。今年度の重点的な取り組みである授業改善のなかで生徒がわかる授業に教員全体で取

り組んだ結果が表れていると考えられる。「授業がわかりやすく楽しい。」の項目も約8割となっており、教員の意図するところが生徒に伝わっていたのではないかと。

- ・「個人情報についてプライバシーが守られている。」の項目は高い値となった。管理職から繰り返し教職員への注意喚起や管理の徹底を職員会議等を通じて周知されたことや教員が適切に個人情報の管理を努めた結果が表れていると考えている。

- ・「授業の学習内容」に関する項目の肯定率が低かった。「環境、国際理解、福祉ボランティアなどの新しい課題について学習する機会がある。」「授業や部活動での活動を通して、地域の人々に関わる機会がある。」「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある。」の4項目が特に低かった。わかりやすい授業を土台にして生徒が主体的に学ぶというような新たな授業を生徒から求められているということであり、裏返せば、授業はわかりやすいと思っているがもっと色々なことができると生徒自身が感じていると判断できる。

- ・夜間定時制で単位制である特徴から、近所の方々と交流する機会を設けることが難しいが、生徒が社会参画できるよう地域と連携した取り組みを今後検討していきたい。

②後期授業アンケート結果について

- ・前期に比べて下がっているが、全体的に肯定率は85%を推移している。生徒は授業について一定評価をしていると言える。

- ・生徒の取組みに関する項目の肯定率は60%前後となっており子供たちの意欲が向上していけば変わってくる。

③平成29年度 学校経営計画及び学校評価（案）について

- ・単位修得率を上げ卒業生を増やしたい。出席率と単位修得率がリンクしていることをふまえ、生徒が学校へ来るにはどうしたら良いのかを中心に、「学校に来たい・楽しい・面白い」と生徒たちが感じる為になどのようにしたら良いのかということが前提となっている。

1（1）

- ・今年、授業改善を大きなテーマとして取り組んできた。「授業改善推進チーム」を立ち上げ、すべての教科でモデル授業を作り、研究授業を行った。

- ・授業環境整備において課題であった生徒のスマートフォンの使用や私語などを少しでも改善しようと取り組んできて、「授業集中キャンペーン」を実施し、生徒たちへの啓発活動を行い、厳しい指導よりも訴える指導を行った結果、ほぼ授業中にスマートフォンを使用する姿を見なくなった。また、遅刻も教室に堂々と入ってくる生徒が少なくなった。ただし仕事等の関係で数値として表すことはできないが上手くいったといえる。

2（1）

- ・生徒向け自己診断「相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の項目の肯定率が目標に達していない。ポイントとしては上がっているが、目標達成のためにもっと力を入れなければならない。

- ・今年からキャリアカウンセラーに予算を大きく配当して活用してきた。その結果、進路指導において目標を達成した。

- ・「進路情報の周知」に関しては目標に達していないため、徹底していきたい。

3

（1）

- ・HRや学校行事に対する認識は今年度も目標値には達成しなかった。次年度は新たなことを考えていく。

（2）ア

- ・「人権教育」についての項目の生徒の肯定度は下がってきている。昨年度に体験的な人権教育をしていこうと

考えており、教員に対する車椅子サッカーの体験についての研修を、アンケートをとった後に行ったため、数値として表れなかった。しかし人権に対する生徒たちの認識が下がってきたことに対しては頑張っていかなければならないと思っている。

(2) イ

・教員と生徒の危機管理についての認識を高めることに取り組んできた。教員に関しては「緊急時の対応を知っている」が昨年度 67%であったのが、96%となり成果があった。一方生徒の方は今年度は消灯をしての避難訓練をするなど実践的な活動をしてきたが、73%に留まっているため、引き続き生徒の意識が高まるような取り組みが必要である。

4 (1)

・教職員向け自己診断の「会議の有効性」の項目の肯定率は 42%となった。運営の体制の改善を図る。教員の方にも会議の目的や主旨を理解させる必要がある。意見集約の反映がなされなかったことに関しては反省点もあるが、生徒の方を向いていない内向きな意見は反映させないため、数値が低くなくても仕方がないと考えている。

④平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価（案）について

- ・平成 30 年度の計画は平成 29 年度の継続・ブラッシュアップしたものである。
- ・学力に関しては今年度実施したことを引き続き行う予定である。
- ・キャリア教育については「生徒に寄り添う」ということがあまり上がらなかったため、長期欠席の生徒への対応の充実や S C や S S W と連携して教員の意識を高めていきたい。キャリアカウンセラーに関しては有効であったため、引き続き校長マネジメント経費で活用していきたい。
- ・今年度は、進路の担当者が卒業生一人ずつの就職先を回って活動状況などを取材し進路便りを発行している。この取り組みを今後も広げていく。またⅢ部独自の進路指導室「にこにこ進路指導室」をつくり、活動しようとしている。これらのことを通して進路情報を充実させていく。
- ・学校行事を大きく見直し、LHR と総合的な学習の時間を固定する。
- ・次年度は遠足を平日に実施する方向で検討中。
- ・人権教育については教員を含め、人権について認識させていく。
- ・危機管理については、生徒に認識させるため実践的な避難訓練を行っていく。
- ・実施計画の中期的目標の一部は下方修正している。

【Ⅲ部 協議・質問】

- 1 授業力の向上のために組織的に取り組んでおられると思ったが、今回の自己診断の結果で生徒たちの「学校に来て楽しい」という数値が思ったよりも低いと思った。さきほど説明していただいたところにもあったように、もしかすると中身をもうちょっと考えていかななくてはならないのではと思ったが、それに関しては授業力の向上に取り組んできたことと「学校を楽しい」と思っている数字の高さがあまり出ていないことについて、どういう風に思っているのか。

⇒ 生徒の数値を横に置いたとしても、授業は改善されている。全ての授業において最初に授業の目標を書いて、子どもたちに目標設定させているなど、2 年前とは全然違う状況である。ただ、子どもたちの「楽しい」とはどの部分の楽しいなのか。生の声だとは思いますが、遊園地に遊びに行くことや友達と喋るような楽しさとして書いていたとしたら「それは違う」。出席率は前期の方が 6 割に達していない状況。実は 4 月には 7 割あった出席率が 5 月には 6 割になり 10% 下がった。それを踏まえ、「後期の最初の授業をしっかりとやり

ましよう」と教員に呼びかけ、最初の 1 週間の授業にしっかり取り組んだが、後期は最初から出席率は上がっていない。

生徒が楽しいと思うことと、教員の思う「これが直ったら、これが改善されたら学校に来る」というものが正直見えていないというのが実態である。

研究授業に関しては各教科 1 人ずつ行い、見学も非常に多くの教員が参加した。特に初任者は見学者からの助言をしっかり受けとめてくれている。ただ、初任者なのでなかなかすぐにレベルは上がらない。お互いの授業を見に行こうという土台は一定できてきている。良いところを盗みあってくれたらなと考えている。

- 2 教育自己診断の結果の項目全て 100%に近づくことは難しいと思う。分析としては「昨年度よりもどうだったか」という分析や教員側は頑張っていると評価しているがなかなかそれが同じ項目について生徒にどれくらい結果が反映されているかなど、その逆を見ていくことに分析の意味があつて、一律に 80%に達していないものは…というふうに見る必要はないと思う。授業改善の成果が上がっていることについては、生徒の評価の方の「授業はわかりやすく楽しい」がほぼ 8 割に近い評価があるので、反映されていると思うし、「学校に行くのが楽しい」と府立高校の生徒全体にアンケートとったらその結果はどうか…と思う。どんどん行事をやったとしても、行事が楽しいと思う生徒もいれば、授業で自分の興味のあることが楽しいと思う生徒もいるし、友達と喋るのが楽しいという生徒もいたり、いろいろだと思うので、あまり一つの項目でどうこう考える必要はないと思う。

⇒ 出席率を上げるために、教員はそれぞれ個別に電話したり家庭訪問をしたり頻繁にやっている。そこは決して教員が手を抜いているわけではない。でもこの状況だから今考えているのは、生徒同士の力を変えられないのか。そこはやっぱり生徒たちが一緒に何かをする場面がなければならないという趣旨で学校行事や HR 活動を違う切り口でやってみたいなど思っている。

- 3 逆に生徒はどんな学校だったら楽しいと思うのだろうか。どんなイメージを持っているのか。

⇒ ちょうど府の事業で行っている生徒の居場所づくりの為の「かめカフェ」でアンケートをとっていた。そのなかで多かったのが「落ち着ける場所が少ない」というものであった。落ち着ける場所が少ないからこそカフェに行くというのがあるのかなとは思うが、考えてみれば、本校は HR 教室があつてないようなもので、授業ごと教室を移動するが当たり前になっている。生徒にとってみればどこで落ち着いたら良いのかわからないというような状況であると思うので、「楽しさ」に繋がるかどうかはわからないが学校に来て「ほっとできる場所」があるとか、「この人と話せてちょっと気が楽になった」というのが増えていく、生徒もそういうふうなものを求めているのではないかと思う。

【通信制課程の報告】

①学校教育自己診断アンケート対象について

・対象：生徒 1,776 名、保護者（母数不明）、教員 51 名／回答数：生徒 219 名（昼間部 160 名、日夜間部 59 名、回収率 12.2%）保護者 110 名（昼間部 100 名、日夜間部 10 名）教員 51 名（回収率 100%）。

②平成 29 年度学校経営計画及び学校評価について

- ・「将来の進路や生きがいについて考える機会がある」の項目について、本校ではシステム上、年間を通して 10 回程度しか HR がなく、そこが通信制ならではの弱点である。今のシステムのまま将来の進路や生きがいについて考える機会を増やすことができないか、来年度の計画に反映させていきたい。
- ・学校教育自己診断の回収率を上げることを次年度の大きな課題にしていきたい。
- ・生徒の状況を把握するために英語科では基礎学力検査を実施した。
- ・ICT を活用した e-ラーニングは今年度はまだ実施できていないが、NHK 高校講座のスクーリングの減免はスクーリングに様々な事情で参加しにくい生徒に対するフォローとして実施し、単位修得率の向上に結び付けていくよう各教科で努力した。
- ・個別の教育支援計画を必要とする生徒が昨年度よりも増加している。
- ・中卒新入生の担任の先生には夏休み等を利用して三者面談を行うよう呼びかけた。成人生徒については二者面談でも可とした。

③平成 30 年度学校経営計画及び学校評価（案）について

- ・平成 30 年度の将来構想を踏まえ、校内でも議論を深め、ニーズに応えられる桃谷の通信の青写真を作りたい。
- ・転任者研修の実施を通して、通信制独特のシステムを早く理解してもらい学習支援等に活かし、即戦力となってもらえるよう組織的にバックアップしていく。
- ・就職希望者に対する分野別説明会と求人票閲覧会を今年度は 1 回実施したが、次年度は複数回開催する。
- ・防災計画の取り組みにおいては、教職員を対象に、夜間停電時を想定した避難訓練を計画している。

【通信制 協議・質問】

- 1 生徒・保護者からのアンケートの回収率を上げるということを言っていたが、府立で唯一の通信制高校の生徒の実態把握は非常に重要だと思う。生徒と家族の背景を知ることが、桃谷高校の先生方の努力だけでできることではないと思う。そういう意味でもアンケートは重要だと思うが、具体的にどのようにして回収率を上げるのか。あるいはアンケートの項目は具体的にどのようにするのか。

⇒ 学校教育自己診断を 11 月に実施しているが、本校は全員が毎日登校するわけではないので、郵送させて頂いている。そうすると届くのが 11 月中で、そのあと郵送で返して頂くことも可能だが、大体はスクーリングに来たついでにアンケート回収 BOX に生徒・保護者の分も投函してもらおう形をとっている。11 月下旬・12 月のスクーリングの参加生徒数が少ないため、1 ヶ月ほど前倒しにして郵送を早めて、まだスクーリングに参加する生徒が多い時期に回収するという事を考えている。

- 2 大学でアンケート調査をすることがあるが、郵送だと回収率は 20% ぐらいである。ところがスマートフォンなどを用いると回収率が上がる。最近の若者はパソコンよりもスマートフォンをよく見るので、そういった方法も有効なのではないか。

⇒ 検討する。

- 3 経済的に苦しい・全日制に通うのが難しい生徒は学習面や対人関係でも困難さがある。経済的・家庭的に課題のある生徒は私学の通信制が少ししんどいところがあると思うので、その実態がわかるような調査をしてほしい。府議会でも話題になっているくらいなので、予算をつけて頂いてほしい。校長先生が独自に裁量できる予算では足りないと思う。そのためにも根拠となるようなデータを集めてほしい。

【学校運営協議会について】

- ・平成 30 年度より全府立学校に「学校運営協議会」を設置する。
- ・本校は本年度と同様体制とする。
- ・「学校運営協議会」では、校長に対して意見を述べることに加え、「基本的な方針」の承認・職員の任用に関して意見を述べるという役割が加わる。(特定の個人に関することを言うことはできない)
- ・法整備されたうえで、今年 4 月に全府立学校に学校運営協議会が設定される。規則及び要項の策定・通知は 3 月末～4 月、4～7 月に委員の就任の承諾書等を提出する。